

・商慣行についての現状

流通形態が大きく変化してまいりました。

問屋さんから白生地を出して頂き染加工をする従来の形態は残っている染工場があるものの、染元が在庫を抱え問屋を通して小売店にお貸しし売れた物だけ買い取ってもらう状態です。小売店も問屋もリスクを回避し川下ばかりが負担を求められています。

染元も、商品が出来上がるまでにいろいろな道具や材料が必要で、多くの染工場があればこそ染道具をつくる職人さんや材料屋さんが生活できるのであって、染元が減って行けば必然とその方達は廃業して行ってしまいます。これではもう産業とはいえません。

検品も機械の染物が基準となり、手で染めたムラは弾かれてしまいます。

このような検品では、もう機械で十分でありいずれ総てが機械のなるのは必然です。